

令和元年度通訳翻訳研究所活動報告

No.	活動内容	開催日	開催場所	参加者数
1	通訳翻訳研究所定例講演会第七回 “翻訳と日本語力ー文章力を究めるには 何が必要かー”	6月26日(水)	学術文化交流センター 小ホール	76名
2	シリーズ・ワークショップ《翻訳》第1回 “文章力を鍛える”	6月26日(水)	学術文化交流センター 小ホール	30名
3	SIG on Phonetics & 通訳翻訳研究所 特別ワークショップ “21世紀 ELF 時代に対応する英語 音声の認識とは？”	11月21日(木)	S101 講義室	111名
4	通訳翻訳研究所定例講演会第八回 “司法・法廷通訳における社会言語的考察”	1月16日(木)	学術文化交流センター 小ホール	84名
5	“言語が活かされるキャリアセッション” シリーズ Professional Words & World 第1回 翻訳の仕事と英語	1月23日(木)	学術文化交流センター 小ホール	56名
6	通訳翻訳研究所ゼミナール 「通訳翻訳講座ーELF時代の通訳翻訳に役 立つ言語知識ー」(全10回)	2月07日(金) ～ 3月06日(金)	サテライトキャンパス	不開講

1. 公開講演会の開催

通訳翻訳研究所定例講演会第七回

翻訳と日本語力ー文章力を究めるには何が必要かー

日時： 令和元年 6 月 26 日(水)13:00～15:00

場所： 学術文化交流センター2F 小ホール

講師： 川井 龍介 (ジャーナリスト・著述家)

司会： 袖川 裕美 (副研究所長)

参加者数： 76 名

概要： 本講演は二つのテーマで構成されていた。第一は正しく伝わる文章を書くにはどうしたらよいか、第二は川井氏自身の翻訳体験についてである。

まず、第一のテーマについては、「伝わらない文章は誰にも読んでもらえない」という当たり前の事実を示し、公文書などの具体例をあげながら、正しく分かりやすい文を書くためのポイントを示した——①テーマを明確にする;②大事なことから伝える;③最終的に読者が見るのは表現された文字だけである;④事実と自分の判断や考えを分ける;⑤理解していないことは書かない等。

次に、第二のテーマ、川井氏が手掛けた新訳書『ノーノー・ボーイ』(ジョン・オカダ著/旬報社/2016年)の再翻訳体験についての話が展開された。英語力の大切さは言うまでもないが、それだけでは解釈しきれない文章があり、文化や時代背景への調査が鍵となる。これらについて、具体例を伴う興味深い説明があった。

著名な第一線級の翻訳者が熱意を込めて直に語る体験談から参加者が得られるものがいかに大きいかを感じさせてくれる良質の講演であった。



通訳翻訳研究所定例講演会第八回 司法・法廷通訳に関する社会言語学的考察

日時： 令和2年1月16日(木)13:00～15:00

場所： 学術文化交流センター2F 小ホール

講師： 吉田 理加（立教大学大学院兼任講師）

司会： 大森 裕實（研究所長）

参加者数： 76名

概要： 本講演は吉田氏が客員共同研究員を務める本研究所の特定課題プロジェクト「通訳に関する社会言語学的考察」の中間報告を兼ねたものである。

まず、「通訳」と「翻訳」の共通点と相違点を認識した後に、通訳者に必要とされる知識・能力とスキルが何かを基礎的知識として確認したうえで、通訳トレーニングの方法について説明と実践があった。

次に、本題であるコミュニティ通訳の一環としての司法・法廷通訳の特徴について解説がなされ、また、当該場面における問題点——言われたとおりに言語化することが正確な通訳なのかについて検討が加えられた。正確に通訳するとは、原発話を削除・省略・追加・編集をせずにありのままに訳出し、原発話の丁寧度やレジスターも忠実に訳出することである。換言すれば、“語用論的等価性”を保持した通訳に配慮することが肝要であり、それこそが法廷通訳者の役割である。黒衣（導管）に徹しながらもコミュニケーターとしての役割を意識することが強調された。

本講師自身が通訳現場で直面したいくつもの事例を挙げての精力的な話は興味深く、通訳者の登龍門ともいべき司法通訳／法廷通訳について理解を深めることができた良質の講演であった。



2. ワークショップの開催

I. シリーズ・ワークショップ《翻訳》〈第1回〉

“文章力を鍛える”

- i) 日程——令和1(2019)年6月26日(水) 15:00～
- ii) 場所——本学「学術文化交流センター」小ホール
- iii) 参加者—30名
- iv) 講師——川井龍介氏(ジャーナリスト・著述家)
- v) 内容——①課題作文—(i)自分が住む家の最寄りの駅周辺についての説明文;(ii)「声」についてのエッセイを書く;
②
(i)と(ii)の作文アプローチの相違点解説;③添削と講評



II. SIG on Phonetics 共催特別ワークショップ

“21世紀ELF時代に対応する英語音声の認識とは?”

- i) 日程——令和1(2019)年11月21日(木) 13:00～
- ii) 場所——本学S101講義室
- iii) 参加者—111名
- iv) 講師——長峯貴幸氏(名古屋外国語大学専任講師)
- v) 内容——①伝統的な英語発音教育 EFL 観と ELF 時代に目指すべき英語発音の特徴;②ELF リスナーとしてできること(“話すための音声学”から“聞くための音声学”へ)解説;③質疑応答



III. 言語が活かされるキャリアセッション Professional Words & World 〈第1回〉“翻訳の仕事と英語”

- i) 日程——令和2(2020)年1月23日(木) 13:00～
- ii) 場所——本学「学術文化交流センター」小ホール
- iii) 参加者—56名
- iv) 講師——堀川恵氏(2014.3卒 2016.3院卒, 大学講師)
福田萌氏(2016.3卒, ㈱エスケーワード)
- v) 内容——①両氏ともに英米学科の卒業生で、翻訳会社に就職し、翻訳コーディネーターとして活躍;②翻訳COについて、堀川氏は負の側面を指摘し、福田氏は正の側面を強調;③翻訳演習と質疑応答



★社会的貢献(ボランティア通訳)

松下景那さん(英米学科3年生/EICコース履修)が2019年G20外相会合(2019.11.22-23)に関連するイベント(メディアセンターにおける愛知県の魅力展示スペースでの案内・通訳・展示

3. 研究所ゼミナールの企画

★本講座は諸般の事情により不開講となった。

通訳翻訳研究所ゼミナール

「通訳翻訳講座－ELF 時代の通訳翻訳に役立つ言語知識－」

開講日時：令和2年2月7/14/21/28日、3月6日（5日間全10回）

会場： 愛知県立大学 サテライトキャンパス

講師： 長峯 貴幸（UCL MA／名古屋外国語大学講師）

今井 隆夫（Ph.D.／南山大学教授）

受講者数：15名

講座内容：① 多様な英語音声の perception と ELF 時代の通訳（長峯）

- ・ ELF 時代の英語音声とは？
- ・ “訛り”を取り巻く複雑な事情とは？－社会言語学の見地から
- ・ ELF 時代の訛りの知覚
- ・ ELF 時代の通訳：聞き手に理解されやすい発音とは？

② 認知言語学と翻訳の新たな視点（今井）

- ・ 認知言語学から言語コミュニケーションを考える
- ・ 認知言語学から言語表現を考える
- ・ 日英語の日常表現における比喻
- ・ 認知言語学から翻訳を考える



「通訳翻訳研究所」定例講演会第七回
翻訳と日本語力
—文章力を究めるには何が必要か—

愛知県立大学「通訳翻訳研究所」は2016年4月の開設以来、順調に地歩を固め、活動四年目を迎えました。これも偏に学内外の皆さまのご協力あればこそと、衷心より感謝申し上げます。さて、本年度定例講演会の第一弾として、ノンフィクションライターとして数多くの著述(米国ロングセラーとして有名な *No·No·Boy* の翻訳を含む)を公刊されている川井龍介氏(ジャーナリスト)を講師にお招きし、翻訳と文章技術、ひいては、文章力とは何かについてお話を伺える運びとなりました。指定対象学生の他にも定員(80名)までは参加可能です(一般公開)。興味があれば、ぜひご来聴ください。

令和元年6月12日 研究所長 大森裕實

【講演要旨】

正しく、わかりやすく伝わる文章を書くにはどうしたらいいのか。翻訳をはじめ、入社試験などに出題される作文やさまざまな種類の文章を通して、それを考える——①「伝わる文章とは何か」；②「翻訳と文章技術～『ノーノー・ボーイ』翻訳例を中心に」。

日時 令和元年6月26日(水) 13:00～15:00
(講義100分+Q&A's / Free Talk 20分)

会場 愛知県立大学 学術文化交流センター (2F 小ホール)



内容 講演 —— “翻訳と日本語力—文章力を究めるには何が必要か”

講師 川井 龍介 (ジャーナリスト・著述家)
※新訳書『ノーノー・ボーイ』(2016)が好評

司会 袖川裕美 (副所長)

対象 外国語学部 EIC コース履修生 / 外国語学部通訳技法・翻訳技法履修生 /
大学院国際文化研究科英語高度専門職業人コース履修生
※その他ご興味のある方はご自由にご参加ください(一般公開)

参加 参加費無料、事前予約不要(定員80名)
申込 ※プログラム詳細については、愛知県立大学 HP ポータルサイト
<http://www.aichi-pu.ac.jp> から本研究所ウェブでご確認ください



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所

お問合せは E-mail で通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp) まで
TEL: 0561-76-8824 (学務課 [研究所担当] 阿部)
FAX: 0561-64-1107 (文系教員センター共用)

通訳翻訳研究所 〈定例講演会第七回〉

日時

令和元年6月26日(水) 13:00～15:00

場所

愛知県立大学(長久手キャンパス)
学術文化交流センター 2階 小ホール

内容

**翻訳と日本語力
—文章力を究めるには何が必要か—**
川井 龍介 氏(ジャーナリスト・著述家)

参加申込

参加費不要, 事前予約不要

※プログラム詳細については,
愛知県立大学HPポータルサイト<http://www.aichi-pu.ac.jp>から
本研究所ウェブでご確認ください



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所



問合せ先 通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp)

「通訳翻訳研究所」定例講演会第八回
司法・法廷通訳に関する社会言語学的考察

愛知県立大学「通訳翻訳研究所」は現在3つの特別プロジェクトを実施しています(本研究所年報『ことばの世界』第11号参照のこと)。その第2プロジェクト「通訳に関する社会言語学的考察」の中間報告を兼ねて、新春早々に定例講演会を開催します。講演講師には日本通訳翻訳学会においても活躍著しい吉田理加氏を迎えました。米国には各州に「法廷通訳者」という資格制度があるほど重要な分野であり、日本でも近年各国語のリエゾン通訳者の増強が求められています。この機会に「司法通訳/法廷通訳」について理解を深めてみたいと思います。万障お繰り合わせの上、ぜひご参加ください。

令和2年1月8日 研究所長 大森裕實

【講演要旨】

司法・法廷通訳において「言われたとおりにそのまま通訳する」ことが「正確な」通訳であるという考え方がある。他方で、「言われたとおりにそのまま通訳する」ことが困難な状況も生じている。本講演では、司法・法廷通訳の仕組みに社会言語学的視点からアプローチし、正確な通訳について事例を紹介しながら検討する。さらには、「通訳」も一つのコミュニケーション行為の一つの形態であることを踏まえ、司法・法廷通訳の役割を社会言語学的に再考する。

日時 令和2年1月16日(木) 13:00~15:00
(講義100分+Q&A's/Free Talk 20分)

会場 愛知県立大学 学術文化交流センター(2F 小ホール)



内容 講演 —— “司法・法廷通訳に関する社会言語学的考察”
※研究所特別プロジェクト「通訳に関する社会言語学的考察」中間報告

講師 吉田 理加 (立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科兼任講師/本研究所
客員共同研究員/日本通訳翻訳学会特定プロジェクト代表)

司会 大森裕實(本学教授)

対象 外国語学部 EIC コース履修生/外国語学部通訳技法・翻訳技法履修生/
大学院国際文化研究科英語高度専門職業人コース履修生
※その他ご興味のある方はご自由にご参加ください(一般公開)

参加 参加費無料、事前予約不要(定員80名)
申込 ※プログラム詳細については、愛知県立大学 HP ポータルサイト
<http://www.aichi-pu.ac.jp> から本研究所ウェブでご確認ください



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所

お問合せは E-mail で通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp) まで
TEL: 0561-76-8824 (学務課 [研究所担当] 阿部)
FAX: 0561-64-1107 (文系教員センター共用)

通訳翻訳研究所 〈定例講演会第八回〉

日時

令和2年1月16日(木) 13:00~15:00

場所

愛知県立大学(長久手キャンパス)
学術文化交流センター 2階 小ホール

内容

司法・法廷通訳における社会言語的考察
吉田 理加

(立教大学大学院兼任講師／本研究所客員共同研究員)

※研究所特別プロジェクト「通訳に関する社会言語学的考察」中間報告

参加
申込

参加費不要, 事前予約不要

※プログラム詳細については,

愛知県立大学HPポータルサイト <http://www.aichi-pu.ac.jp> から

本研究所ウェブでご確認ください



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所



問合せ先 通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp)

「通訳翻訳研究所」
シリーズ・ワークショップ《翻訳》
第1回
文章力を鍛える

冠省 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。愛知県立大学「通訳翻訳研究所」は2016年4月の開設以来、着実に地歩を固め、活動四年目を迎えることができました。本研究所の目的は、多言語にわたる通訳翻訳の理論的基盤研究と実践的応用研究を統合し、その成果を学内及び愛知県下の行政及び企業・団体等に還元することにあります。本目的達成のために、外国語学部（英米学科と国際関係学科をブリッジするEIC [English for Intercultural Communication] コース、中国学科の翻訳・通訳コース）・大学院国際文化研究科（国際文化専攻の英語高度専門職業人コースACDEP）・通訳翻訳研究所（IIT）において、通訳翻訳の教育と研究を一貫して行うことにより、通訳翻訳の研究・教育の充実と良質の通訳者・翻訳者の養成を図ります。そのための重要な事業の一環として、実務経験豊かな講師による講演会や研究会を定期的に開催してまいります。

本年度はシリーズ・ワークショップの一環として、専門性の高い講師をお迎えして「翻訳——文章力を鍛える」を開催する運びとなりました。指定対象学生の他にも定員（35名）までは参加可能です。興味があれば、ぜひご参加ください。

令和元年6月12日 研究所長 大森裕實

- 日時** 令和元年6月26日（水）15:00～16:30
(講義&演習形式90分)
- 会場** 愛知県立大学 学術文化交流センター（2F 小ホール）
- 内容** [ワークショップ] “翻訳——文章力を鍛える”
- 講師** 川井 龍介 【(株)毎日新聞社記者、(株)日経ビジネス編集部を経て、フリーランスのジャーナリスト兼ノンフィクションライター／新訳書『ノーノー・ボーイ』(2016)が好評】
Moderator 袖川裕美 (副所長)
- 対象** 外国語学部 EIC コース履修生／外国語学部通訳技法・翻訳技法履修生／
大学院国際文化研究科英語高度専門職業人コース履修生
※同日直前に開催される「定例講演会第七回“翻訳と日本語力—文章力を究めるには何が必要か”」を受講できる者に限る。
- 参加申込** 参加費無料、事前要予約（定員35名／先着順）
※本件については、愛知県立大学 HP ポータルサイト <http://www.aichi-pu.ac.jp> から 本研究所ウェブでご確認ください。



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所

お問合せは E-mail で通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp) まで
TEL: 0561-76-8824 (学務課 [研究所担当] 阿部)
FAX: 0561-64-1107 (文系教員センター共用)

SIG on Phonetics & 通訳翻訳研究所
《特別ワークショップ》
21 世紀 ELF 時代に対応する英語音声の認識とは？

愛知県立大学「通訳翻訳研究所」は現在3つの特別プロジェクトを実施しています(本研究所年報『ことばの世界』第11号参照のこと)。その一つ「音声理論研究とその通訳養成への応用」の中間報告を兼ねて、外国語学部 SIG on Phonetics との共同開催で《特別ワークショップ》を開催します。英語の音声に興味のある方はぜひご参加ください。

令和元年 11 月 12 日 研究所長 大森裕實

【講演要旨】

国際化が進む 21 世紀の現代、英語は 1 つの国際共通語 (English as a lingua franca: ELF) として、異なる母語を話す人々がコミュニケーションをとる際に用いられる主要言語となっています。発音を学習する際には、ネイティブスピーカーのような発音を目指すのではなく、母語の影響(訛り)を残しつつも国際的に通じやすい発音を目指すことが現実的かつ必要なことであると指摘されます。一方で、そうした訛りのある英語をどのように「聞く」のかについては、あまり議論がなされていません。本ワークショップでは、ELF 時代の音声をどのように聞いたらよいか、実際に世界中で話されている様々な種類の英語と先行研究を紹介しながら考えていきます。また、ELF 時代において「音声学的知识」をどのように活用していくべきか、参加者の皆さんと議論を深めたいと思います。

日時 令和元年 11 月 21 日 (木) 13:00~14:30
(講義 70 分+Q&A's / Free Talk 20 分)

会場 愛知県立大学 (長久手キャンパス) S101 講義室



内容 ワークショップ “21 世紀 ELF 時代に対応する英語音声の認識とは？”
※本研究所特別プロジェクト「音声理論研究とその通訳養成への応用」中間報告

講師 長峯 貴幸 (名古屋外国語大学講師/本研究所客員共同研究員)
愛知教育大学教育学部卒業、英国ロンドン大学 (UCL) 言語学修士課程修了
愛知県立大学では 2 年間 English Phonetics を担当 (非常勤講師)
司会 大森裕實 (英米学科教授)

対象 外国語学部 English Phonetics 及び研究概論 (英語学) 履修生
その他、興味のある方はご自由にご参加ください (一般参加可)

参加 参加費無料、事前予約不要 (定員 200 名)
申込 ※本研究所活動の詳細については、愛知県立大学 HP ポータルサイト
<http://www.aichi-pu.ac.jp> から本研究所ウェブでご確認ください。



主催 愛知県立大学 SIG on Phonetics
共催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所

お問合せは E-mail で通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp) まで
TEL: 0561-76-8824 (学務課 [研究所担当] 阿部)
FAX: 0561-64-1107 (文系教員センター共用)

<特別ワークショップ>

SIG on Phonetics



通訳翻訳研究所

日時 令和元年11月21日(木) 13:00~14:30

場所 愛知県立大学(長久手キャンパス) S101講義室

内容 21世紀ELF時代に対応する英語音声の認識とは?
※研究所特別プロジェクト「音声理論研究とその通訳養成への応用」中間報告

長峯 貴幸 名古屋外国語大学講師/本研究所客員共同研究員

**参加
申込** 参加費無料, 事前予約不要(先着200名)
※プログラム詳細については, 愛知県立大学HPポータルサイト
<http://www.aichi-pu.ac.jp>から本研究所ウェブでご確認ください

問合せ先 通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp)





愛知県立大学
AICHI PREFECTURAL UNIVERSITY

通訳翻訳研究所
“言語が活かされるキャリアセッション”
シリーズ Professional Words & World 第1回
翻訳の仕事と英語

愛知県立大学「通訳翻訳研究所」では、学部卒業生及び大学院修了生の通訳・翻訳分野における現状及び動向調査を通して、潜在的な人的リソースの発掘及び活性化を行なうことを主要な事業の一つとして位置づけています。

このたび、英米学科卒業生の協力を得て、以前から温めていた企画“言語が活かされるキャリアセッション”を実施する運びとなりました。シリーズ Professional Words & World (プロの世界とことば) 第1回を開催します。今回の講師2名はいずれも卒業・修了後に翻訳関連の会社に勤務した経験を有しており、学生時代の言語学習が翻訳業務というキャリアにどのように繋がったのか、また、現在の仕事において注意を払っている英語表現など、興味深い話が聞かれるものと思います。学年を問わず、多くのご参加を期待します。

令和2年1月15日 研究所長 大森裕實

日時 令和2年1月23日(木) 13:00~15:00
(講演90分+Q&A's / Free Talk 30分)

会場 愛知県立大学 学術文化交流センター (2F 小ホール)

内容 [キャリアセッション] “翻訳の仕事と英語”

講師 堀川 恵 (2014.3 卒業, 2016.3 院修了 / 翻訳 A 社勤務を経て名城大学他講師)
福田 萌 (2016.3 卒業 / 株式会社エスケイワード勤務)
司会 大森裕實 (本学教授)

対象 ・外国語学部 EIC コース履修生 / 外国語学部通訳技法・翻訳技法履修生 /
・大学院国際文化研究科英語高度専門職業人コース履修生
・当該分野に興味のある本学学部生の皆さん

参加申込 参加費無料, 事前予約不要 (定員 80 名)
※プログラム詳細については、愛知県立大学 HP ポータルサイト
<http://www.aichi-pu.ac.jp> から本研究所ウェブでご確認ください。



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所

お問合せは E-mail で通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp) まで
TEL: 0561-76-8824 (学務課 [研究所担当] 阿部)
FAX: 0561-64-1107 (文系教員センター共用)

通訳翻訳研究所ゼミナール 「通訳翻訳講座」 —ELF時代の通訳翻訳に役立つ言語知識— ご案内

冠省 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、愛知県立大学は2016年4月に「通訳翻訳研究所」を開設いたしました。本研究所では主たる事業計画として第一項に掲げた「講座」(日英語翻訳講座(理論と実践))を公開方式で毎年度実施しております。

さて、昨年度は少し趣を変えて、ELF(国際英語)時代の通訳翻訳を支える言語知識を涵養する講義を企画実施したところ、他に類をみない内容であったためか、想定外に好評を博しました。そこで今回も二本立ての講義——①多様な英語音声の perception と ELF 時代の通訳(長峯);②認知言語学と翻訳の新たな視点(今井)を実施することいたしました。また、初回のみ本研究所長も講義を担当する予定です。

現在職に就いている卒業生や一般社会人の皆さまの便を考慮して、本年度も金曜日の夜間に名古屋駅近くに在るサテライトキャンパスにおいて開催します。この機会に是非ご参加いただければ幸いです。

令和2年1月12日 研究所長 大森裕實

開催日時
第1回 令和2年2月7日(金) 午後6時00分～午後7時30分
第2回 令和2年2月7日(金) 午後7時30分～午後9時00分
毎週金曜日 2回連続開講 (@90分) 2/14, 2/21, 2/28, 3/6[全10回]



講座会場 愛知県立大学(サテライトキャンパス)
〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目4-38
愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」15階

講座講師
① 長峯貴幸(UCL MA)(名古屋外国語大学専任講師)
② 今井隆夫(Ph.D.)(南山大学教授)
(紹介)長峯貴幸氏は音声学の本場 University College London で修士課程を修めた新進気鋭の音声学研究者であり、愛知教育大学における教員研修の経験も豊富。
今井隆夫氏は認知言語学の知識を英語教育の現場に応用することに関心が高く、最新刊『実例とイメージで学ぶ 感覚英文法・語法講義』(開拓社, 2019)も好評。

募集定員 最大30名(最少催行人数6名)

参加申込 要事前申込み(E-mailでお願いします) 締切: 1月29日(水)

受講料 全10回分(@2,000円×10=20,000円)を一括して納めること
※詳細については、愛知県立大学 HP <http://www.aichi-pu.ac.jp> でご確認ください。



主催 愛知県立大学 通訳翻訳研究所

お問合せは E-mail で通訳翻訳研究所 (IITsince2016@for.aichi-pu.ac.jp) まで
TEL: 0561-76-8824 (学務課 [研究所担当] 阿部)
FAX: 0561-64-1107 (文系教員センター共用)

令和元年度 通訳翻訳研究所購入所蔵図書

(冊)

通訳翻訳研究	22
言語運用分野	11
言語知識分野	24
資料類	7
辞書類	5
計	69